

S2d

7月26日

10:30~11:15

会議室D

テクニカルセッション



小林 偉昭

独立行政法人 情報処理推進機構

技術本部 セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー

ラボラトリー長

設計・運用視点でのサイバー攻撃対策

プロフィール

1970年早稲田大学工学部応用物理科卒業。1972年東京工業大学理学部物理学専攻修士課程終了。同年(株)日立製作所入社。ネットワークとセキュリティの事業企画。2006年より(独)情報処理推進機構セキュリティセンター。情報セキュリティ技術ラボラトリー長。脆弱性、マルウェア、不正アクセス等の運用業務の統括、最近ではスマートフォン、重要インフラの制御システム及び自動車・情報家電等の組込みシステムセキュリティなどの調査・分析等に従事。

講演概要

高度なソーシャルエンジニアリング手法を利用して、防衛産業の機密システムや官公庁システムまでが攻撃される事態になりました。このように組織へのサイバー攻撃は年々高度化が進み、関連組織・団体や子会社などが踏み台として利用されるケースが明らかになっています。

講演では、こうした最新のサイバー攻撃の手口を理解するとともに、企業の情報システム担当者が既存システムに対して実施できる対策やシステム設計段階で考慮すべきセキュリティ項目などを紹介します。また、運用段階ではシステムの状態をタイムリーに把握し、サイバー情報共有を進めて、対策の事前準備をすることも考慮しなければいけなくなってきています。IPAが推進する企業システムのセキュリティ対策とサイバー情報共有への取り組み等の押さえておくべきポイントを紹介します。

自社は、社会的に重要な情報はないからセキュリティ対策は関係ないというスタンスは今や許されません。グループ企業の一員としての意識向上やSCMでインシデント発生時の関連企業に与える影響を認識する時期になっています。

S2d

7月25日

10:30~11:15

会議室D